# クロマグロ遊漁の在り方・公平な採捕機会確保のための論点整理

くろまぐろ遊漁専門部会では、細かな制度・運用議論はもちろんのこと、「くろまぐろ遊漁の在り方」そのものを議論するべきと考えている。

## 現状整理

### 背景

資源の枠組みに支障をきたさない合理的な管理が必要

### 現状

- 小型魚採捕禁止
- 大型魚40トン
- 月別管理バッグリミット

### 問題点

漁期が短く年間の67%、夏期は89%が採捕禁止期間

※採捕可能日数
4月～9月：19日間
10月～翌3月：100日間
年間可能日数：119日間

### 課題

- 十分な枠の確保
- C&Rの活用（採捕禁止前）

### 解決策

- 遊漁枠の創設と実態に沿った枠の配分実施
- TAC管理以降による遊漁枠の管理

- 「二段階指示」によるキャッチアンドリリースの活用
- 一定量で「採捕停止」としC&Rを指示、枠が積みあがった場合は「採捕禁止」を指示
- C&Rについても実施報告をさせること

## 議論したいこと

①IATTC、WCPFCの各国の遊漁の制度はどのような内容か

②割り当てのない国でクロマグロ遊漁をしている国の有無は

③小型魚が一律禁止であることの法的、科学的根拠とは

④遊漁の留保の位置付け及び40トンの法的、科学的根拠とは

⑤日本の釣り人、遊漁船の漁期が短いが、どの程度釣り、遊漁船の営業ができる状態を目指すべきか

⑥遊漁者、釣り人を含めた枠配分の議論、実態評価をどのように実施するべきか

⑦採捕禁止前のC&Rに反対する漁業者の方は何が懸念点か

⑧資源管理において「くろまぐろ遊漁」をどう位置付けるのか。小型魚の配分がない中で割り振り係数など漁業者と共存させるためにどのように管理するのか

⑨採捕禁止前C&Rを実施するにあたり現行の国際ルールまたは国内制度において制度上実施ができない根拠、制約はなにか

Copyright© 2022 Japan Anglers Association All Rights Reserved.